

科目名	地域保健学			分野・必選別・単位数	基礎科目	選択	2単位
担当教員	◎教授 高橋謙造 教授(客) 石崎達郎 講師(非) 坪倉正治 講師(非) 山本 真 講師(非) 渡辺鋼一郎					科目ナンバー	T5B106
課程	修士	配当年次	1年	配当学期	前期	授業方法	講義
授業の概要	<p>地域保健に関して、</p> <p>1) 住民／患者の視点:健康づくり、医療の利用、患者医師関係、医療情報利用の観点</p> <p>2) 医療提供者の視点:家庭医療、地域医療の現場における医療活動、住民・患者との関係構築の観点</p> <p>3) 地域社会の視点:さまざまなステークホルダーの協働による健康なまちづくり、コミュニティづくりの観点から、公衆衛生専門家として課題発見、解決、研究活動を行うことができるようになることをめざし、講師および受講生同士でディスカッションを行う。</p> <p>(公衆衛生学研究科「地域保健学」合同開講)</p>						
授業の到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>1.知識習得型の座学ではなく、地域保健に関わっていく上で、解決策、実践案を案出し得る能力・ツールを修得する。</p> <p>【行動目標 (SBO)】</p> <p>1.地域における健康と保健・医療に関する課題の発見、コミュニティづくり、ステークホルダーと協働した問題解決を行うことができる。</p> <p>2.コミュニティ・コーディネートの手法について説明できる。</p> <p>3.プロジェクト・サイクル・マネージメントを活用した問題分析、活動案案出を行うことが出来る。</p>						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	高橋 謙造	教授	【6/15(火)1時限】コミュニティの捉え方／プライマリ・ヘルス・ケアからヘルス・プロモーションへ			
	2	高橋 謙造	教授	【6/15(火)2時限】日本の地域保健発展の歴史(人材はどう育っていったか?)／地域診断の概要			
	3	坪倉 正治 高橋 謙造	講師(非) 教授	【6/22(火)1時限】震災対応と地域への関わり			
	4	坪倉 正治 高橋 謙造	講師(非) 教授	【6/22(火)2時限】パンデミック対策に活かす震災対応経験			
	5	渡辺鋼一郎 高橋 謙造	講師(非) 教授	【7/13(火)1時限】ポジティブデビエンスを用いた地域課題解決(講義)			
	6	渡辺鋼一郎 高橋 謙造	講師(非) 教授	【7/13(火)2時限】ポジティブデビエンスを用いた地域課題解決(実習)			
	7	山本 真 高橋 謙造	講師(非) 教授	【7/20(火)1時限】これからのコミュニティと地域保健:コミュニティ・コーディネートについて			
	8	山本 真 高橋 謙造	講師(非) 教授	【7/20(火)2時限】コミュニティ・コーディネートについての実践ワークショップ			
	9	石崎 達郎 高橋 謙造	教授(客) 教授	【7/27(火)1時限】高齢社会における地域保健医療と研究事例(講義)			
	10	石崎 達郎 高橋 謙造	教授(客) 教授	【7/27(火)2時限】高齢社会における地域保健医療と研究事例(グループワーク)			
	11	高橋 謙造	教授	【8/3(火)1時限】ロジカルフレームワークを用いた活動計画の立案(講義) -問題分析&目的分析-			
	12	高橋 謙造	教授	【8/3(火)2時限】ロジカルフレームワークを用いた活動計画の立案(実習1-問題分析&目的分析-)			
	13	高橋 謙造	教授	【8/10(火)1時限】ロジカルフレームワークを用いた活動計画の立案(講義) -関係者分析等-			
	14	高橋 謙造	教授	【8/10(火)2時限】ロジカルフレームワークを用いた活動計画の立案(実習2-関係者分析等-)			
15	高橋 謙造	教授	【8/17(火)1時限】発表・討論・まとめ				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	履修学生に事前に配布する。					
	【事後学修】	履修学生に事前に配布する。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	1. 開発援助のためのプロジェクト・サイクル・マネジメント:参加型計画編 http://www.fasid.or.jp/publication/6_index_detail.shtml						
参考書	<p>1. 日本の保健医療の経験 http://jica-ri.jica.go.jp/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/field/200403_02.html</p> <p>2. Supportive supervision/mentoring and monitoring for community IYCF http://www.unicef.org/nutrition/files/Supervision_monitoring_module_Nov_2012.pdf</p> <p>3. Guidelines for Implementing Supportive Supervision. A step-by-step guide with tools to support immunization http://www.path.org/vaccineresources/files/Guidelines_for_Supportive_Supervision.pdf</p>						
成績評価の方法および基準	(1) 授業への積極的な参加(40%) (2) レポート提出評価(60%) 出席点による加点は行わない。無断欠席については減点の対象となる。 (3) 課題、レポートを再提出した場合、または期限に遅れての提出の場合は、原則として減点の対象とする。						
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP4が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。 希望に応じて、実習(海外での調査、離島、僻地等)も行う。 時間割を変更して実施(1時限9:30~11:00、2時限11:10~12:40、3時限13:30~15:00、4時限15:10~16:40、5時限16:50~18:20)						